

金田遺跡第 3 地点の発掘調査成果について

(公財)北九州市芸術文化振興財団埋蔵文化財調査室

担当学芸員：安部和城

1. 時代：18 世紀～19 世紀（江戸時代後半～幕末・明治時代）

2. 発掘調査の概要

金田遺跡はこれまで2回の発掘調査が行われており、今回の調査が3回目となります。現在、調査を行なっている第3地点および、これまでの調査地点を第1図に示しています。

発掘調査では100基を超える江戸時代の土坑(ゴミ穴や用途不明の穴)や、12基の井戸跡(江戸時代～明治時代～近現代)、300基以上の柱穴などの遺構(過去の人々が残した痕跡)が確認されました。これらの遺構からは、大量の瓦やかんざし、匙(スプーン)、肥前磁器(伊万里焼)、肥前陶器(唐津焼)など、さまざまな遺物(土器や茶碗など)が出土しています。特に、小倉藩主、小笠原家の家紋である「三階菱紋」の鬼瓦など、一般的な武士が使用することを許されない遺物が出土していることから、今回発掘調査を行なっている場所には、何らかの公的施設が存在した可能性が考えられます。

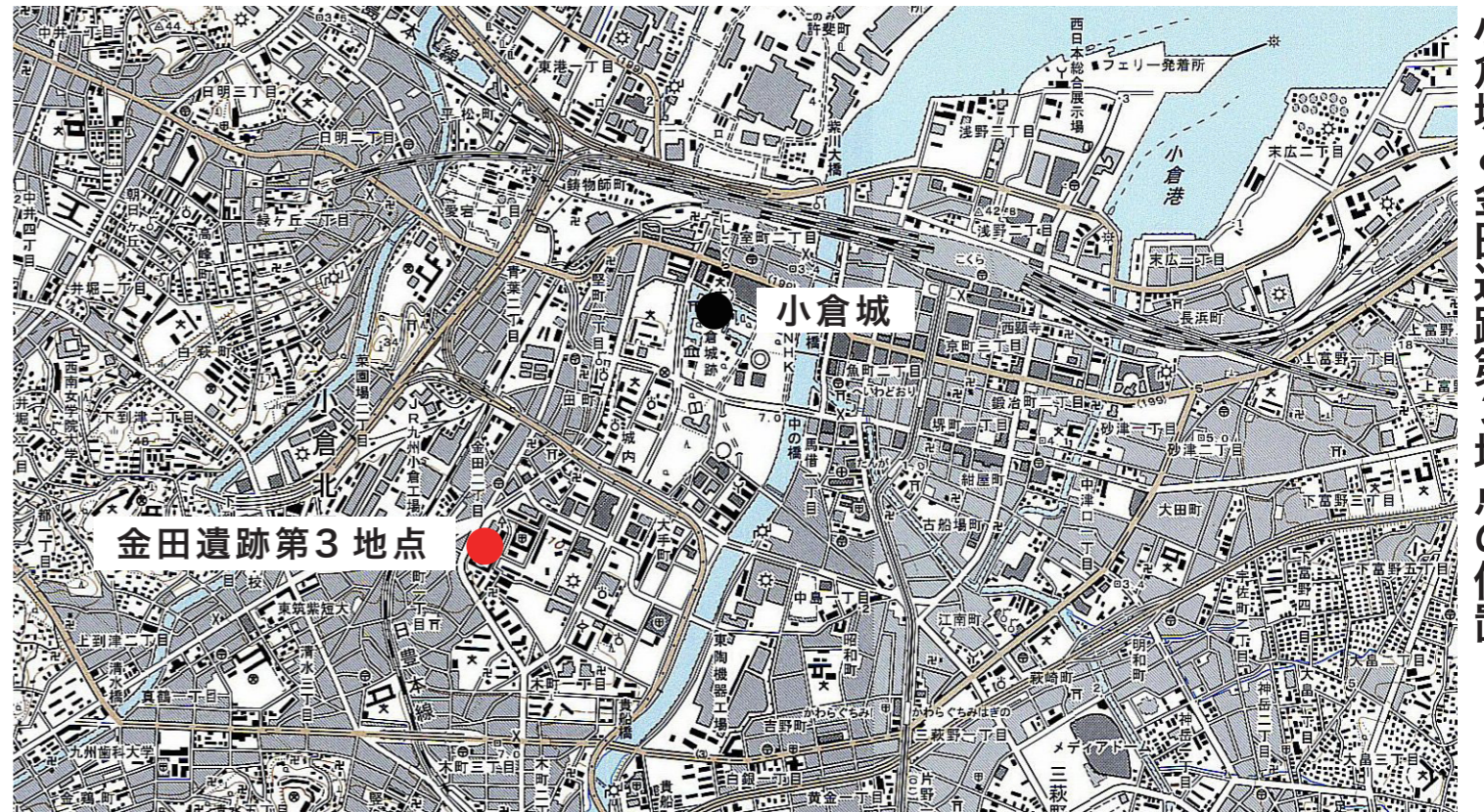
また、現存している幕末に描かれたとされる小倉藩士屋敷絵図(第2図)と現在の調査地点を比較することで、調査地点が当時の城下町のどこに位置しているのかを、おおよそ理解することができます。絵図と調査区の比較から、金田遺跡周辺は「御郡地武家屋舗」と「清水口門」と考えられ、郡代などの屋敷地や、城下町の門周辺と推定できます。このことは、出土した遺物の中に小笠原家の三階菱紋鬼瓦が含まれていることと整合的です。砂利敷の道路状遺構が確認されたため、絵図との比較により、遺跡の正確な位置を推定できる可能性があります。ちなみに、この幕末頃の絵図以前に描かれている絵図には、調査地点は描かれていません。

加えて、調査された遺構の中には焼土(焼けて赤くなった土)などが多く入っていることや、バラバラになった瓦、様々な大きさの石が雑多に廃棄されている状況が確認されました。このことは幕末頃の小倉城自焼に関連する遺構である可能性と、「三階菱紋」の鬼瓦を廃棄する事態が起こったことを想定することができます。

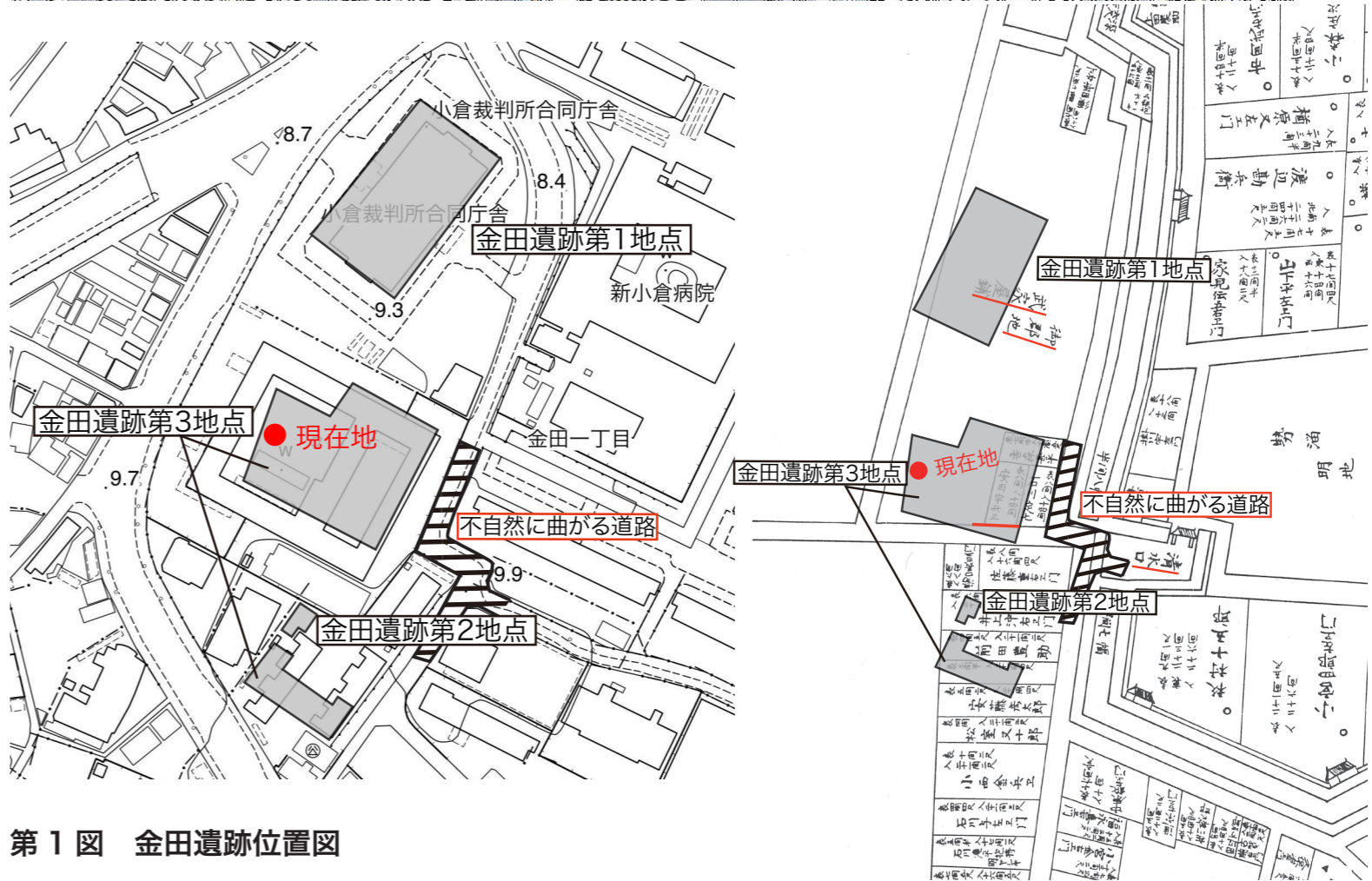
また、関東・関西・備前から供給された耐火煉瓦や、近代ガラス瓶の出土などを含めて、現在では分からない江戸時代～幕末・近代にかけての小倉城下町の流通や土地利用を考える上で非常に重要な事実となります。

3. おわりに

小倉城下町が作られた当初の道路は、現在でも道路として利用され、町の中心には今も小倉城があります。発掘調査は、過去から現在まで、人間が生きてきた土地利用の痕跡を確認し、記録することで、地域の歴史を後世に残す作業です。歴史を感じることや学ぶことは、私たちが生きている現在をより良く理解することを助けてくれます。発掘調査終了後は、出土した遺物の整理・研究を行い、発掘調査報告書を刊行します。報告書が刊行されて発掘調査は本当の終了となります。この金田遺跡第3地点の報告書は来年度刊行予定です。刊行されましたら、市内の図書館等に置かれますので、興味のある方はぜひご覧ください。



小倉城と金田遺跡第3地点の位置



第1図 金田遺跡位置図

第2図 幕末頃の小倉藩士屋敷絵図と金田遺跡の位置比較(案) ※縮尺不統一

絵図や地図からみた
金田遺跡周辺の
土地利用変遷模式図

未来	小倉拘置支所 新設
2018年	金田遺跡第3地点 発掘調査
2017年 └ 1960年	旧小倉拘置支所
1959年 └ 1953年	不明(依然、占領期か?)
1952年 └ 1945年 └ 1931年	サンフランシスコ講和条約 米軍による占領期により不明 第二次世界大戦終結 15年戦争時は陸軍用地? 満州事変
1930年? └ 1920年	陸軍施設 九州製作所? 耐火煉瓦やガラス瓶の出土
1919年 └ 1898年 └ ?年	田畑用地 畝状遺構を確認
1869年 └ 1853年	御郡地武家屋鋪 幕末頃 (城下町内?)
1852年 └ 江戸時代 前期~後期 1600年	絵図に記載は無いが 遺構を確認
中世	青磁の出土 何らかの営みがあった?
古代	不明
古墳時代 5~6世紀	甕片の出土 何らかの営みがあった?

出土した「三階菱紋」の鬼瓦など



大量の徳利や土瓶などが
廃棄された土坑(93号土坑)



石列と溝跡
屋敷境か?



大量の瓦や石が廃棄された土坑(40号土坑)



江戸時代の石組み井戸(4号井戸)